



宮古島放浪記

12月に宮古島で行われた「ミヤコカナヘビ飼育管理検討会議」に園長と一緒に出席してきました。



<クロウサギ柄の飛行機でいざ宮古島へ！>

どんな会議かといいますと読んで字のごとく「ミヤコカナヘビ」というカナヘビの仲間の飼育管理について話し合う会議です。たかだかカナヘビにと感じる方も多くいるでしょうが、ミヤコカナヘビは絶滅の危機に瀕しており環境省のレッドリストでは最高レベルの絶滅危惧1A類に掲載されています。そんなミヤコカナヘビをどう守っていくかを動物園水族館関係者、環境省職員、研究者などが一同に会して話し合う場で、毎年行われています。今年は現地宮古島での開催となりました。



<青い海だけではなくて会議にもしっかりと参加してきましたよ！>

私自身、宮古島に行くことが初めてで野生のカナヘビを見るのももちろんですがどんな場所なのかワクワクの出張となりました。2泊3日の行程で、中日1日が会議、その前後が移動日であったので、会議の日以外は現地の自然を見て回りました。

宮古島でまず、というかずっと目にしたのがサトウキビ！とにかく360度サトウキビ畑。ざわわの世界が広がっています。



<一面のサトウキビ>



<ざわわと園長>

宮古島本島（宮古島市はいくつかの島からなります）の北側にある海中公園。ここはコンクリートの部屋を海中に作って、小窓から自然の海を観察できる施設になっています。カクレクマノミや色鮮やかなスズメダイなど熱帯ならではの魚を間近でみることができ、南国に来たなという実感が沸きました。途中カツオの群れが目の前を泳いでいく様子は感動的でした。もう一つ感動したことが、この施設にいる職員の方のおしゃべりです。魚の生態はもちろん海のこと宮古島のこととにかく人を惹きつけるおしゃべりでした。私たち飼育員は基本的には同じ動物について話しますが、海にはいつ何がいるのかはわかりません。引き出しの多さや来た人に合わせて話をする技術はすごいなと思うと同時に、解説を聞く楽しさと大切さを改めて感じました。



<好きな窓から海の中をのぞける>



<小魚から大きな魚まで何がみられるかはその時次第>

次に訪れたのが島尻マングローブ林という場所です。マングローブ林の中を遊歩道で歩いていくのですが、ここでもたくさんの生物に出会うことが出来ました。これまでマングローブ林を見たことがなかったので、ここが同じ日本かと驚くとともに幻想的な風景はとても印象に残りました。また、歩いていると「パキッ」や「パチン」といった音が森の中かから聞こえました。その正体がわからず、植物なのか、動物なのか、はたまた自然織りなすなにかなのか謎が深まりましたが、後で詳しい人に聞いたところテッポウエビのハサミの音だろうということでした。日立の海でもテッポウエビを捕まえたことがありますが、あそこまで大きな音は出せないののでどんな大きなエビなのか姿は見えずともロマンだけが膨らみます。



<マングローブ林。潮の満ち引きで景色も変わります。>



<ベニシオマネキとミナミトビハゼ>

お次は熱帯植物園です。ここでは原生林とそこに暮らす生物、そして日本在来馬の一つである宮古馬を見ることが出来ます。



<日本在来馬8種のうちの1種である宮古馬>

<天然記念物のリュウキュウキンバト>



<緑色が美しいハトの仲間ズアカアオバト>



<ヒメアマガエル>

海でも色々な生物がみられました。海辺に生息しているミヤコトカゲは潮の満ち引きに合わせてフナムシや魚を食べる珍しい生態を持ったトカゲです。



<オカヤドカリの仲間>



<ミヤコトカゲがどこにいるかわかりますか？>

>

夜の森で観察も行いました。爬虫類から両生類、昆虫、陸生貝類まで様々な生物を見ることができました。



<ミヤコエダナナフシ>



<サキシマキノボリトカゲ>



<サキシママダラ>



<ミヤコヒキガエル>



<ヤエヤマサソリ?>



<オキナワウスカワマイマイ>

ここで驚いたのが外来種のカタツムリの仲間であるアフリカマイマイです。とにかくたくさんいる！そしてデカイ！10センチをゆうに超えるものがゴロゴロといました。在来の陸生貝類との競合や植物への被害が深刻であると言われていますが、あそこまで増えてしまったものを根絶するのは相当難しいなと感じました。



<まさに敷いたようにいたアフリカマイマイ>

宮古島ではアフリカマイマイをはじめとして、外来生物が大きな問題となっています。ミヤコカナヘビもその被害を受けており、イタチやクジャクなど本来島にはいなかった生物によって様々な在来希少種が捕食されていることが確認されています。出張中に一度はクジャクに出会いたいと思っていましたがとうとう見かけることはできませんでした。聞いたところ島の人たちの努力によって数が減っているとのこと。見かけなかったことは喜ばしいことだったと言えます。



<クジャク?と思しき羽>

以上が放浪記となります・・・ん?おかしいですね。ミヤコカナヘビの写真が出てこないのはやっぱりおかしいですね。実はミヤコカナヘビの現地観察も行い写真も撮りましたが載せられないのです。ミヤコカナヘビの減少理由の一つに違法採集があります。つまり密猟です。捕まえて自分で飼うことももちろんですが、売買や他種との交換を目的とした違法な採集が行われているのです。絶滅の危機が高まるほど希少価値がでてしまいます。ここで写真を公開することによって良からぬ人たちに情報を与えてしまう危険性があるということから写真を出せないのです。悲しいですがこれが現実です。



<宮古島の平和を守る「まもる君」>

ミヤコカナヘビを絶滅の危機から救うべく各関係機関が協力していますがまだまだ課題が山積しています。宮古島から遠く離れたかみね動物園ですが、ミヤコカナヘビの飼育繁殖だけでなく、展示や普及啓発活動を通じて多くの方にミヤコカナヘビの置かれた現状をお伝えできればと思います。多くの人たちの努力が実りミヤコカナヘビが絶滅危惧種ではなくなった暁には堂々と写真を載せたいです。動物園で何気なく展示してあるミヤコカナヘビですが、その背景にもぜひ注目してもらえればと思います。



<動物園の写真で今は勘弁してください・・・>

泡盛を飲む園長の横でひたすらオリオンビールを飲んでいた 中本

2023年12月24日

12月のクビキリギス



先日、カンガルー舎のコンクリ地面にひょいっと出てきた昆虫がいました。



<特徴的な赤い口>

クビキリギスです。

これを撮影したのは12月9日。キリギリスの仲間はほとんど見かけなくなる時期ですが彼らは成虫のまま越冬することが知られています。草むらでじっとしているので冬でも見つけやすいのですが自分から出てきたので少し驚きました。

この日の最高気温は18.8度（参照：日立市天気相談所）。

日中はとても暖かかったので越冬しかけていたものが春と勘違いして動き出した、と考えら

れます。



〈ふらふらのクビキリギス〉

越冬する昆虫は寒くなると休眠状態に入りエネルギーの消費を防ぐ仕組みが体内にあります。

クビキリギスのように成虫で越冬する昆虫は暖かい日は活動するのでエネルギーを消費してしまい「死」に直結です。

私が見つけた個体も動きはとて鈍く簡単に捕まったので休眠から目覚めたばかりでぼーっとしていたか、一度目覚めてから再度休眠できずふらふらの状態だったのかもしれませんが。

できる限り温度変化が少なそうな法面に放しましたがどうなるか・・・。

最近冬の割に暖かいと感じる日が多く過ごしやすかったのですが、この暖かさは身近な生き物たちにとっては

生死を左右する深刻な問題となるかもしれません。

(飼育員 かわそえ)

2023年12月21日

標本から知る動物たちのひ・み・つ

先日「豚足骨格標本づくり」を開催しました。



〈豚足〉



〈豚足の骨格〉

私たちを含めて多くの脊椎動物は死ぬと骨になります。動物園ではその骨を利用して標本をつくることがあります。

骨格は体を支える基礎であり、内臓を守り、筋肉が付着する土台となり、体を動かすために必要不可欠な役割を持っています。標本とすることでその動物がどのような生態でどのように環境に適応して生きてきたか沢山の情報を得ることができます。

今回は簡単に手に入る豚足を利用して来園者にも骨の魅力を知ってもらいたい！と骨好き獣医師と骨のことをもっと知りたい飼育員で企画しました。



＜炊飯器に入っている豚足＞ ＜肉を剥がして骨になりました＞

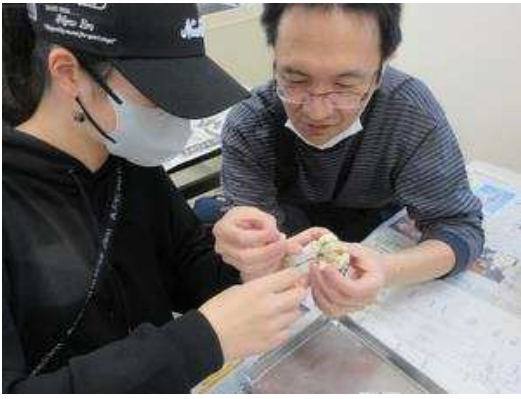
まずはイベントを行う下準備。豚足を炊飯器で煮込みます。
骨についている皮や肉、ゼラチン質の部分はこれで剥がしやすくなります。
剥がれた部分はきれいに洗って骨の部分を取り出します。



綺麗にした骨を用意してよいよ本番！
参加者の皆さんには最初は予備知識一切なしで組み立ててもらいます。
なんとなく指っばいパーツ、足首になりそうなパーツ・・・
どこのパーツかは分からないけどピタッと組み合わせることも！



その後、獣医師解説のもと組み立てていきました。
見本シートとにらめっこしながらパーツを探していきます。
親子で協力しながらの作業です。



フィットする部分は接着剤でくっつけていきます。

段々豚足の全貌が見えてきました！

パーツをフィットさせるためにくるくる回しながら見るため、ああでもない、こうでもないという声が各テーブルから聞こえてきます。



ブタが立っている時の足の形を想像してくっつけるとかっこよくなります。

骨格から見ると人と違ってバレリーナのようにつま先立ちしているのがよく分かります。

・・・そして格闘すること約1時間以上！ようやく完成！！

仮止めなので家でじっくりくっつけて補強すれば豚足骨格標本の完成となります。





大人でも難しい作業でしたが親子で協力しながら作ることができました。
私もこのワークショップの前に一度組み立ててみましたがパーツがフィットする瞬間がたま
らなく気持ち良いです。
そして、無駄な部分が無い洗練されたデザインの骨を見て改めて生き物の体ってすごいなあ
～と感じました。



<どうぶつ資料館>



<どうぶつえんのたからもの展>

動物園には「どうぶつ資料館」という場所があります。
あらゆる動物の頭骨標本の他、卵や角の標本なども展示してあります。
なかでもゾウの全身骨格標本は大迫力なので一度見て頂きたいです。
12月26日までは企画展「動物園のたからもの展」も開催しております。
普段、隅の方にあった糞や羽根標本を詳しい解説付きで展示したり、骨格標本のつくり方も
掲示してあります。また、飼育員が日々の飼育の中で見つけた動物の生きざまが分かる【た
からもの】も集めてみました。こちらもぜひご覧ください。

生きている動物からは分からない標本の面白さ、皆さんも沼にはまってみませんか？

2023年12月10日

ポニーの引馬体験イベントを実施しました！

ポニーの引馬体験イベントを実施しました。

11月18日（土）にポニーの引馬体験イベントを行いました！

まずは説明！



最初に軽くポニーの紹介とイベントの説明を行い、注意事項などを確認。
お手入れ道具の簡単なクイズも行いました！

最初は…？



参加者には初めてポニーに触る人も多いので、ポニー達にあいさつ代わりにブラッシングをして慣れてもらいます。
ブラッシングや蹄の手入れなどは、動物とコミュニケーションを図るとともに、動物の健康チェックにも役立ちます！



いよいよメインの引馬体験！

少し緊張もほぐれたところで！いよいよ本番の引馬体験！
手綱を持って広場内を飼育員とともに一周します。



慣れてきたところで、今度はなんと！



広場を出て広場周りの園内を一周！柵に囲まれていなくてもちゃんと歩みをあわせて歩いてくれるポニー達。

(途中で言葉通り、道草を食う姿も…笑)



ポニーと人との関係は古く、以前は炭鉱馬としても人と一緒に過ごしてきました。とても賢く、自分の体重の約2倍の物を運ぶこともできる力強さも持ち合わせています。

人との信頼関係はとても大事です。

引馬体験を通じてコミュニケーションをとり、信頼関係を築く第一歩を感じていただけたら何よりです。

最後にありがとう。とお礼におやつをあげて…



イベントは終了！
参加者の方々もとても楽しそうにされていて安心しました。

かみね動物園に遊びに来た際はぜひポニー達に会いに来てください！

(飼育員 はまだなな)

2023年12月9日

絵本だZOO開催しました

11月26日に絵本だZOOを開催しました。



<室内の様子> <読み手の秋山さん>

当園でこのイベントを行うのは2回目です。

子供たちに絵本を読んでもくれるのは今年も秋山さん！

市内の図書館でも読み聞かせをしてくださっており、動物園でも子供たちと一緒に絵本を読むことをとても楽しみに来ていただきました。



まずはあいさつ代わりに皆でうたあそび。

「パンダ・うさぎ・コアラ」を歌いながら手でその動物の特徴をつくります。
楽しいねえ～



そしてお待ちかねの絵本へ！
今回は動物たちが出てくる3冊の絵本を読んでもくれました。
子供たちとても聞き入っています。
大人も夢中になる絵と語りぐちです。



ここで終わらないのが絵本だZOO！
この後は絵本に出てきた動物たちに会いに行きました。
初めにゾウ。子供たちには絵本に出てきたゾウにより親しみをもってもらおうとおやつをあげてもらいました。



絵本から飛び出てきたゾウは大きくて鼻息もすごくて・・・
絵本とのギャップに驚いてしまう子もいましたが、それは動物を見るうえでとても大切な感覚です。



最後はカメに会いに行きました。

絵本ではどこまでもずんずんお散歩に行っていた彼ら。

間近に見るカメの甲羅や白菜をむしゃむしゃバリバリ食べる口に皆夢中です。

絵本から飛び出てきた本物の動物たちは子供たちにどんな思い出を残してくれたでしょうか？

皆さんも絵本に出てくる動物たちに会いに動物園へ遊びに来てください。

新たな発見があるかもしれません。

2023年12月4日

今年はおまーい作物育てたゾウ！

今年はおまーい作物育てたゾウ！

「今年は何を育てますか？」（後輩A）「トマトでいいんじゃない？」（先輩）「日立でサトウキビって育てますかね？」（後輩B）「できるよ」（先輩）「じゃあ、せっかくならトウモロコシとサトウキビと育ててゾウに食べさせたいですね！」（後輩B）なんて会話が初春の動物園ゾウ班で繰り広げられ、今年の夏はトウモロコシとサトウキビ栽培に決定しました。

まずは荒れ果てた畑の草刈り！ Before



そしてAfter ゾウのうんちを土に混ぜて栄養満点。



頑張りすぎた？恥ずかしながら手にマメを作ってしまった。



5月下旬にゾウ班総出で苗の植え付けです。



ふれあい広場担当職員に立派な看板も作ってもらい、頑張ってるゾウ！



太陽をいっぱい浴びてすくすく成長しています。7月になるとトウモロコシの先端に雄花、下の方には雌花が咲き始め小さいトウモロコシができたきました。



トウモロコシは枝にたくさんの雌穂がついてしまうと美味しく育たないので一番上の雌穂を残して下の方の穂は取り除きます。実はこの皮を剥いた中身がヤングコーン。一足早くミネコに与えました。



8月には実がパンパンに大きく育ち、いざ、収穫！たくさん収穫できました。

朝採れ新鮮なうちにミネコ、スズコに与えました。暑い日が続く中でほんのひとときの甘みと水分補給でよく食べました。





サトウキビは8月になっても沖縄のざわわな広いさとうきび畑をイメージしたようには大きく育たず大丈夫かなあ〜って感じですが・・・雨にも負けず、風にも負けず・・・



月日は流れ・・・11月中旬。心配をよそに大きく成長しました。



サトウキビのおためし収穫です。ちなみに今年は地球温暖化？沸騰化？のせいかわからないが11月下旬になっても気温が下がらずまだまだ成長中です。葉が枯れてきた頃が本格的な収穫の時期なので予定では1月頃かな？それまではざわわしてるので動物園にお越しの際には関東地方ではあまり見ることのない実物のサトウキビをご覧ください。



最初はなにかなあ〜って感じで警戒していましたが、口に入れた瞬間から甘いと分かったのか、もう1つちょうだいの催促でサトウキビの味を堪能しました。



今後は畑仕事を飼育員だけの楽しみにするのではなく、参加者を募って動物が食べる様子を観察しながら出した糞を肥料として利用し、四季を通して栽培した作物をエサとして与える一連の自然の循環システムを植物を育てながら楽しむ機会を提供出来ればと思います。

担当 きむら

2023年12月2日

スタンプラリーで知ろう～絶滅危惧種のこと～

10月1日から31日まで※茨城DC（デスティネーションキャンペーン）特別企画と題して「スタンプラリーで知ろう～絶滅危惧種のこと～」を開催しました。



当園で飼育している動物たちが描かれています。
実は彼らは野生下ではとある危機に瀕しています。



例えば、クロサイなら密猟による生息数の減少、アジアゾウなら環境破壊によるエサ不足など、命の存続を脅かす現状が今なお続いています。

動物園の動物たちは私たち市民と野生を繋ぐ架け橋でなくてはなりません。

地球で暮らす同じ生き物の未来を皆で考えていけるように動物園は発信し続けています。

今回のスタンプラリーもその内の一つです。



最終地点のどうぶつ資料館では当園の動物たちの野生下での現状を飼育員がポスターにまとめて貼り出しました。

各担当者がまとめた力作。お読みいただけたでしょうか？

動物園で開催されるイベントやガイド、飼育員が作成した掲示物など動物のことを詳しく知るヒントは園内にたくさんあります。

それらをまずは知って頂き、私たち人間が何ができるのか、共に考えていけるよう動物園はこれからも発信し続けてまいります。

※スタンプラリーに参加いただいたかたへのトートバッグプレゼントは、11月末に当選者へ賞品を発送しました。

※茨城デスティネーションキャンペーン

JRグループ6社と地域（県、市町村、地元観光事業者など）が一体となって行う国内最大規模の観光キャンペーンで茨城県での開催は21年振りとなります。

「スタンプラリーで知ろう～絶滅危惧種のこと～」はこの茨城DC特別企画として実施したもので

10～12月の茨城DC期間中は他にも市内・県内で様々なイベントが開催されています。

2023年12月1日